

(花嫁賛歌I)

雅歌

- 4.01 ああ、わが愛する者。あなたはなんと美しいことよ。なんと美しいことよ。あなたの目は、顔おおいのうしろで鳩のようだ。あなたの髪は、ギルアデの山から降りて来る やぎの群れのよう、
- 4.02 あなたの歯は、洗い場から上って来て 毛を刈られる雌羊の群れのようだ。それはみな、ふたごを産み、ふたごを産まないものは一頭もない。
- 4.03 あなたのくちびるは紅の糸。あなたの口は愛らしい。あなたの頬は、顔おおいのうしろにあって、ざくろの片割れのようだ。
- 4.04 あなたの首は、兵器庫のために建てられた ダビデのやぐらのようだ。その上には千の盾が掛けられていて、みな勇士の丸い小盾
- 4.05 あなたの二つの乳房は、ゆりの花の間で草を食べているふたごのかもしか、二頭の子鹿のようだ。
- 4.06 そよ風が吹き始め、影が消え去るころまでに、私は没薬の山、乳香の丘に行こう。
- 4.07 わが愛する者よ。あなたのすべては美しく、あなたには何の汚れもない。
- 4.08 花嫁よ。私といっしょにレバノンから、私といっしょにレバノンから来なさい。アマナの頂から、セニル、すなわちヘルモンの頂から、獅子のほら穴、ひょうの山から降りて来なさい。
- 4.09 私の妹、花嫁よ。あなたは私の心を奪った。あなたのただ一度のまなざしと、あなたの首飾りのただ一つの宝石で、私の心を奪ってしまった。
- 4.10 私の妹、花嫁よ。あなたの愛は、なんと麗しいことよ。あなたの愛は、ぶどう酒よりもはるかにまさり、あなたの香油のかおりは、すべての香料にもまさっている。
- 4.11 花嫁よ。あなたのくちびるは蜂蜜をしたたらせ、あなたの舌の裏には蜜と乳がある。あなたの着物のかおりは、レバノンのかおりのようだ。
- 4.12 私の妹、花嫁は、閉じられた庭、閉じられた源、封じられた泉。
- 4.13 あなたの産み出すものは、最上の実をみのらすざくろの園、ヘナナ樹にナルド、
- 4.14 ナルド、サフラン、薑蒲、肉桂に、乳香の取れるすべての木、没薬、アロエに、香料の最上のものすべて、
- 4.15 庭の泉、湧き水の井戸、レバノンからの流れ。

(花嫁賛歌II)

雅歌

- 6.04 わが愛する者よ。あなたはティルツアのように美しく、エルサレムのように愛らしい。だが、旗を掲げた軍勢のように恐ろしい。
- 6.05 あなたの目を私からそらしておくれ。それが私をひきつける。あなたの髪は、ギルアデから降りて来る やぎの群れのよう、
- 6.06 あなたの歯は、洗い場から上って来た 雌羊の群れのようだ。それはみな、ふたごを産み、ふたごを産まないものは一頭もない。
- 6.07 あなたの頬は、顔おおいのうしろにあって、ざくろの片割れのようだ。
- 6.08 王妃は六十人、そばめは八十人、おとめたちは数知れない。
- 6.09 汚れのないもの、私の鳩はただひとり。彼女は、その母のひとり子、彼女を産んだ者の愛する子。娘たちは彼女を見て、幸いだと言い、王妃たち、そばめたちも彼女をほめた。
- 6.10 「暁の光のように見おろしている、月のように美しい、太陽のように明るい、旗を掲げた軍勢のように恐ろしいもの。それはだれか。」

(花嫁賛歌III)

雅歌

- 7.01 高貴な人の娘よ。サンダルの中のあなたの足はなんと美しいことよ。あなたの丸みを帯びたももは、名人の手で作られた飾りのようだ。
- 7.02 あなたのほぞは、混ぜ合わせたぶどう酒の 尽きることのない丸い杯。あなたの腹は、ゆりの花で囲まれた小麦の山。
- 7.03 あなたの二つの乳房は、ふたごのかもしか、二頭の子鹿。
- 7.04 あなたの首は、象牙のやぐらのようだ。あなたの目は、パテ・ラビムの門のほとり、ヘシュボンの池。あなたの鼻は、ダマスコのほうを見張っているレバノンのやぐらのようだ。
- 7.05 あなたの頭はカルメル山のようにそびえ、あなたの乱れた髪は紫色。王はそのふさふさした髪のとりにこになった。
- 7.06 ああ、慰めに満ちた愛よ。あなたはなんと美しく、快いことよ。
- 7.07 あなたの背たけはなつめやしの木のよう、あなたの乳房はぶどうのふさのようだ。
- 7.08 私は言った。「なつめやしの木に登り、その枝をつかみたい。あなたの乳房はぶどうのふさのように、あなたの息はりんごのかおりのようであれ。
- 7.09 あなたのことは、良いぶどう酒のようだ。私の愛に対して、なめらかに流れる。眠っている者のくちびるを流れる。」